

188 冠血流予備能に着目した冠動脈疾患の新たな治療戦略	相川 忠夫
------------------------------	-------

【目的】冠血流予備能 (CFR) は、ポジトロン断層撮像法 (PET) から求まる安静時の心筋血流量と、血管拡張薬などを用いた負荷時の心筋血流量の比である。CFR の低下は冠微小循環障害や機能的虚血を反映するだけでなく、冠動脈疾患の独立した予後予測因子である。しかし、冠動脈狭窄に対する冠血行再建が心筋全体の CFR をどの程度改善させるかは明らかでない。本研究では冠血行再建が心筋全体の CFR に及ぼす効果について検証した。

【方法】北海道内の4施設で、冠動脈疾患と診断された患者82名を登録した。全ての患者でガイドラインに沿った適切な薬物治療を行い、機能的虚血の程度に応じて各施設で冠動脈インターベンション (PCI) もしくは冠動脈バイパス術 (CABG) を実施した。登録時に心筋血流定量のゴールドスタンダードである¹⁵O 標識水 PET を用いて安静時と負荷時の心筋血流量と CFR を計測し、さらにその6か月後に PET で再評価した。冠動脈病変の解剖学的重症度や冠血行再建による改善度は、SYNTAX スコアと Leaman スコアの両方を用いて評価した。

【結果】82名中75名 (薬物治療単独群25名、PCI群28名、CABG群22名) で2回目のPETを行い、解析対象とした。治療前のCFRはSYNTAXスコアおよびLeamanスコアと負に相関した。治療後のCFRはCABG群でのみ有意に増加した。治療前のCFRが2未満と低下した研究参加者41名で検討すると、CFRの増加はCABG群だけでなく、PCI群でも認められた。治療前後のCFRの変化率は、冠血行再建によるSYNTAXスコアの改善度もしくはLeamanスコアの改善度とそれぞれ有意に相関した (図)。臨床背景などを調整した多変量解析においても、CFRの変化率は冠血行再建による各スコアの改善度と有意に関連した。

CFR の変化率と SYNTAX スコアの改善度および Leaman スコアの改善度との関係

